

## 未来へつなぐ「国連生物多様性の10年」せいかりレー 実施状況

### 概要

愛知目標の最終年である2020年に、この10年間における日本国内での生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組・成果・課題等を広く共有・発信することを通じて国内における生物多様性の主流化を一層進め、自然と共生する世界の実現に向けた2021年以降の取組につなげるとともに、これまでの10年間の日本の取組の成果として発信する。

【期間】2020年1月～11月

【対象】生物多様性の保全及び持続可能な利用の普及・啓発に関するイベント

2019年11月11日 環境省より報道発表

2020年1月11日 特設サイトの公開・運用



参加登録状況 29件 (2020.6.15 現在)

※内、9件が新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を中止/延期

★オンライン開催イベントへの登録の呼びかけを強化していく

### キックオフイベント開催報告

「あいち・なごや生物多様性 EXPO」

主催 : UNDB-J、環境省、愛知県、名古屋市 共催 : 生物多様性自治体ネットワーク

開催日程 : 2020年1月11日～12日 場所 : 名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市)

全国の取組成果を広く共有・発信していく「せいかりレー」のキックオフとして、あいち・なごやの10年間の取組を振り返り、未来へつなぐことを目的に実施。



シンポジウム、分科会、生物多様性交流広場（ブース出展、ステージイベント等）を実施。基調講演や愛知県・名古屋市で活動している団体の事例発表、パネルディスカッションや生物多様性ミニ授業などを通じて、生物多様性に関する取組成果と今後のさらなる展開を共有するとともに、若い世代を含む多くの方々に生物多様性について考えてもらう機会となった。認定連携事業の表彰及び生物多様性ユースアンバサダーの紹介も実施。

来場者数 : のべ約 7,300 人 (シンポジウム約 1,700 人)

# 国連生物多様性の10年記念シンポジウム 「いしかわ・かなざわから発信する生物多様性10年のあゆみ」 ～ 持続可能な次の10年に向けて ～



## < イベント概要 >

イベント名：国連生物多様性の10年記念シンポジウム 「いしかわ・かなざわから発信する生物多様性10年のあゆみ」 ～ 持続可能な次の10年に向けて ～

主催：国連大学 サステナビリティ高等研究所 いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

共催：環境省、石川県、金沢市、石川県立自然史資料館

後援：国連生物多様性の10年日本委員会、北國新聞社、北陸中日新聞

協力：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)

実施日：2020年5月16日(13:30-15:45)

場所：オンライン (Zoom)

イベント趣旨：国連生物多様性の10年のキックオフシンポジウムが開催された石川の10年の活動を総括し、次の10年に向け、生物多様性とどのように向き合い持続可能な地域を作っていくかを議論する。

## < 開催内容 >

・基調講演 「生物多様性の10年—これまでの10年これからの10年—」

武内和彦(公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長)

・地域の事例紹介 - 石川県七尾市能登島から

小山明子(国連大学 IAS OUIK 研究員)

・ビジネスセクターからこの10年を振り返る

藤田香(日経BP 日経ESGシニアエディター/日経ESG 経営フォーラムプロデューサー)

・パネルセッション「この10年を振り返り、今後の10年について語る」

パネリスト：藤田香、道家哲平(IUCN-J 事務局長)、鳥居敏男(環境省 自然環境局長)、イヴォーン・ユ(国連大学 IAS OUIK 研究員)

モデレーター：渡辺綱男(国連大学 IAS OUIK 所長)

## < 取組成果 >

全国（世界）各地からの参加者278名がオンライン上に集まり、シンポジウムを視聴、40を超える質問とコメントが寄せられた。ローカルからグローバルまで様々なセクターを超えた取り組みが紹介され、生物多様性を守り、持続可能な未来を築くためにどんなアクションがとれるか議論した。参加者アンケートでは「今後の活動に向けたヒントやアイデアがもらえた」「生物多様性の取り組みがいかに重要か再確認できた」等の感想もあった。

